

# 2022 年度 事 業 報 告 書

自 2022 年 4 月 1 日  
至 2023 年 3 月 31 日

公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟

## 目次

概況.....	1
1. はじめに.....	1
2. 連盟全体.....	2
3. 事業別概況.....	3
I . 競技会事業（公認目的事業 1）.....	6
1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）.....	6
2. 競技会運営環境の整備（公益目的事業 1.2）.....	7
3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）.....	7
4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）.....	7
II . 普及事業（公益目的事業 2）.....	8
1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）.....	8
2. 講習会の開催（公益目的事業 2.2）.....	9
3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）.....	9
4. 広報（公益目的事業 2.4）.....	11
5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）.....	11
III . 国際交流事業（公益目的事業 3）.....	12
1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）.....	12
2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）.....	12
3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）.....	12
4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）.....	12
IV . 収益事業等.....	13
1. 公認（収益事業 1）.....	13
2. 商品販売（収益事業等 2）.....	13
V . 法人・管理部門.....	14
1. 会員・会友.....	14
2. 理事会・会員総会.....	15
3. 組織運営.....	16
4. 常設委員会・特別委員会.....	16

## 概　況

### 1. はじめに

2022 年度は新型コロナウイルス感染症（以下、コロナという）の最初の感染拡大から 2 年以上が経過した。コロナの影響は 2020 年度および 2021 年度と比較し年々減少はしているものの、依然として大きな影響を及ぼした。

コロナ以前と比較してセクショナルのテーブル数は全体で約 85% にまで回復したが、ウイークリーは約 65%、IMP は 50% 弱にとどまっている。公認料収入全体はコロナ以前の 80% 弱、競技会事業収入全体はコロナ以前の約 73% となった。週末のセクショナルはかなり回復しつつあるものの平日の午前を中心にウイークリー、IMP の集客が厳しく、ナショナル、リジョナルの連盟主催競技会の参加者も十分には戻っていないという状況である。

各ブリッジセンターの経営状況も同様で、回復傾向はあるものの収支の確保に依然として苦しんでいる。収入を十分に回復させ、コロナ前の経営の安定を取り戻すにはまだまだ時間がかかると思われる。各ブリッジクラブは定期的な活動はできているものの参加者数はやや伸び悩んでいる。

会員・会友数の減少傾向については歯止めがかかっていない。コロナの 3 年間で合計 1,000 人以上の減少となった。コロナによるブリッジ控えが主な理由と見られる退会者は 2022 年度にはあまり見られなくなったが、新入会者があまり確保できていない状況が続き、2022 年度は会員・会友数が 200 人以上の減少となった。体験教室、入門教室、初心者向けの講習会および競技会の参加者数は 2022 年度も芳しくはない状況が続いている。

プレイヤーの感染状況については 7 月に同じセンターの同日に参加した複数のプレイヤーから後日の陽性判明が報告された事例が 2 件発生した。それを受け各センターに感染対策の徹底および検温の実施の要請を行った。8 月以降は感染者の報告件数は大きく減少し落ち着きを取り戻している。

コロナ前の状況に戻る明るい兆しも少し見え始めている。2022 年度はコロナ後初めて JCBL 主催競技会を予定通り全て開催することができた。10 月には第 4 回アジアカップがインドネシアのジャカルタで開催され、2019 年以来の日本代表の海外派遣を行った。2023 年夏季 IMP において首都圏ブリッジセンターは割引きキャンペーンを実施し、減少している IMP の活性化を図る。2023 年春の体験教室はコロナ後初めて首都圏の全センターが開催を計画している。

2023 年 3 月のマスク着用の自由化のあともブリッジ界では概ね着用を継続しているが、感染対策の緩和は始まっている。2023 年度にはコロナの影響が低下し、テーブルに戻ってくるプレイヤーが増えることを期待したい。

## 2. 連盟全体

コロナの長期化を踏まえ、事業計画では以下の5点を目標に掲げコロナへの対応に重点をおいた。コロナ下における収支の確保及び感染防止対策に関しては、前年度のコロナの経験を生かした対応を行うことができた。しかし感染が2年間以上にわたり長期化していることにより、ブリッジセンター、ブリッジクラブの財政、継続性へのダメージ、プレイヤーの競技会参加の手控え、新規プレイヤーの獲得のための活動の停滞といった悪影響が蓄積している。

### (1) コロナ下における収支の確保

公認料収入はコロナ以前の約8割を確保でき、予算を大幅に上回る結果となった。セクショナルが順調に回復したことが大きく寄与した。しかしウィークリー、IMPの不振が続いておりあまり喜べる状況ではない。

当期経常増減額のうち経常収益については1億4,676万円を見込んでいたが、実績では約1億5,815万円となり、予算に対して1,139万円上回った。経常費用については当初予算では1億5,299万円を見込んでいたが、実績では約1億4,548万円となり、約751万円の改善が見られた。経常外収益の受取助成金等が約1,314万円、過年度競技会公認事業収益が670万円あり、経常外費用のセンター支援を1,500万円行った。

競技会参加者数を見てみると、主催競技会、公認競技会ともに前年度は上回った。最終的に17,524,336円の黒字決算となった。

### (2) コロナ下での適切なブリッジ活動の実施

2022年度は前年度の経験を踏まえ、引き続き感染防止対策の徹底に努めた。JCBL主催試合においては、スタッフの事前PCR検査の実施、体調不良者の参加料の全額返却、日本リーグの参加者の要件の緩和、昼食時の発声を控えるための工夫を行ったほか、センター、クラブ主催競技会においては、検温、消毒、換気、密の回避、体調に違和感のある人の参加自粛を要請した。センター、クラブに参加したプレイヤーが後日に陽性となったケースに関する情報公開をHP上で行った。

### (3) 管理部門の経費効率化

2022年度は事務局職員の世代交代を継続し、アルバイトの削減に努め、事務局の職員5名による新しい体制の定着を図った。人件費を含む管理費の大幅な削減を行うことでコロナ下における収支の確保につなげた。

### (4) ブリッジセンター及びブリッジクラブへの支援

前年度に引き続き、ブリッジセンターに対しては公認料の一部返還による支援を、ブリッジクラブに対してはクラス2~5の年会費を半額にする支援をそれぞれ実施した。感染防止対策に関する相談、協力依頼に対応を行った。

### (5) コロナ後の対応

コロナの感染が年度を通じて継続したため、コロナで競技会参加を手控えているプレイヤーの復帰の後押しや新規プレイヤー獲得のための活動の支援を積極的に行う状況には至らなかった。

### 3. 事業別概況

#### (1) 競技会事業（公益目的事業 1）

##### 【競技運営】

「感染防止対策に十分な配慮を行い、安心な競技会環境の提供を図る。主催競技会の運営においては、世界各国からも高い評価を受けている大会運営ノウハウを生かして質の高い競技会の提供に努めるとともに、担当ディレクターや参加者からの意見やニーズを収集して問題点や課題の把握に努め、迅速に対応していく。」

2022年度は予定していたJCBL主催ナショナル11競技会、同リジョナル5競技会のうち、すべての競技会を開催することができた。

##### 【競技会の向上】

「中長期的な課題として、引き続きよりよい競技機会を広く提供するために競技会の内容の見直しと競技会参加者に対するサービス向上を図る。」

コロナの対応のためテーブル数を調整して、換気を徹底した。1ラウンドのボード数や対戦方法を見直しライト数をなるべく多く維持した。日本リーグの参加者の要件を緩和した。体調不良者が出ていたときに安心してキャンセルができるように参加費の全額返還を行った。

##### 【JTOS】

「競技会運営管理システムの整備・改善に努める。競技会運営ソフト（JTOS）については競技会事業部が継続して保守にあたることとし、使用者のニーズに合わせた新バージョンを隨時リリースする。スコア入力システム（ブリッジメイト）の貸与及び導入支援を継続する。」

JTOSの保守を行った。各ブリッジセンター、ブリッジクラブの主催競技会の運営のサポートを行った。

##### 【ディレクター育成】

「ディレクター講習会を継続し、競技会運営のレベルアップを図る。3年ごとに行っているナショナルディレクター養成プログラムは、次回を2023年度の予定とする。」

2022年8月20日（日）に四谷ブリッジセンターでクラブディレクター講習会を開催した。

2022年度はナショナルディレクター養成プログラムの非実施年度であった。

##### 【ブリッジの規則改正】

「デュプリケートブリッジの規則が日本では2018年3月31日から施行され、定着している。今年度はさらなる周知と適切な使用に努める。」

2018年3月31日に施行された新規則のスムーズな定着に努めた。

#### (2) 普及事業（公益目的事業2）

##### 【広報活動】

「プレスリリースの送付先の整備、SNSプラットフォームの開設等を含め、アジア競技大会出場など普及に有用な話題を既存プレイヤーおよび潜在的な層に効果的な方法で発信できる体制を整える。」

プレスリリースの発信、Twitter、facebook による情報提供を行った。

【入門講習会支援】

「新聞に開催告知広告を掲載し、各センター・クラブ主催の体験教室、入門講習会の参加者の増加を図る。優待券進呈キャンペーンを継続し、口コミを活用した入門者獲得を推進する。」

首都圏を中心とした全国の体験教室の告知広告を 2022 年秋および 2023 年春に行つた。2022 年度も優待券進呈キャンペーンを継続した。

【子どもおよびユース】

「橋之介くらぶでは、四谷・大船の 2 会場でブリッジの基礎を学ぶ機会を提供する。大学生を中心としたユースプレイヤーの育成を図るため、オンラインを活用してコストを抑えながら、講習会の開催、合宿の補助、競技会への誘導、クラブ活動の支援を行う。」

橋之介くらぶは四谷および大船で開催した。ユースの講習会は対面式で開催された。合宿の補助は 2022 年 9 月および 2023 年 3 月に行った。

【大学でのブリッジ授業の開講】

「大学でブリッジ授業を開講し、ブリッジに理解ある若い世代の確保とブリッジの知名度の向上を図る。東京大学・早稲田大学・青山学院大学・明治大学・大阪大学・京都大学でそれぞれ実施する。」

2022 年度は早稲田大学（前期）、東京大学（前期、後期）、青山学院大学（後期）、明治大学（前期、後期）、大阪大学（後期）、京都大学（前期）でそれぞれ実施された。

【京阪神の普及活動】

「カルチャースクールと連携して一般層の取り込みに力を入れる。大学生を中心とした若い世代に対しては競技会へ積極的に誘致してレベルアップを図る。」

名古屋、京都、大阪における活動はカルチャースクールの重要性が高く、各スクールと連携して新規プレイヤーの育成を行つた。

【その他各地域の普及活動】

「福岡、札幌、仙台及びその他の全国各地域の普及活動に対して、広告宣伝への協力、指導ノウハウの共有を行い、体験教室の開催を支援していく。」

福岡、仙台の普及活動への協力を図った。

(3) 国際交流事業（公益目的事業 3）

【第 19 回アジア競技大会】

「第 19 回アジア競技大会は 2022 年 9 月に中国の杭州で開催され、男子、混合の 2 つの代表チームを派遣する。2018 年の前回大会では惜しくも逃したメダルの獲得、および 2026 年愛知大会での競技採用を目指す。」

第 19 回アジア競技大会は 2023 年 9 月に延期された。

【第 4 回アジアカップ】

「第 4 回アジアカップは開催地および開催時期は未定である。オープン、レディース、ミックス、シニアの 4 つの代表チームを派遣する。」

第 4 回アジアカップは 2022 年 10 月にインドネシアで開催された。シニアが 2 位、オ

ブンが決勝ラウンド進出を果たした。

#### (4) 収益事業

##### ① 公認事業（収益事業 1）

「公認事業関連業務は公認ブリッジクラブ及びブリッジセンターと連携し、より円滑かつ適正な事業運営となるようシステム化、効率化を進めていく。」

ブリッジセンターの平日セクショナルの開催条件の緩和を 2022 年度も継続した。

##### ② 商品販売事業（収益事業 2）

「在庫管理や販売方法など関連業務の見直し及び効率化を図る。」

在庫管理やウェブからの商品発注に対する回答などの自動化について検討を行った。

#### (5) 管理部門

「昨年度に引き続いて新入会無料キャンペーンを継続する。2014 年度から 2018 年度の無料キャンペーン利用者は無料期間終了後も高い継続率を維持しているため、新入会者の確保を最優先としそのための施策を実施する。」

2014 年度から行っている新入会無料キャンペーンの利用者は、無料期間終了後も十分な継続率であると考えられ、新入会キャンペーンを今後も継続する。

「各センター・クラブとの連携の強化、プレイヤーにとってもより魅力のある連盟を目指し、事務局員のブリッジ愛好者への応対の向上を図る。事務局業務の改善と職員の世代交代の促進に取り組み、マニュアル化を推進する。」

事務局員の世代交代を継続し、職員 5 名による新しい体制の定着を行った。

## I. 競技会事業（公益目的事業 1）

### 1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）

#### ① 主催競技会

- 2022年度は以下の競技会を主催した。

競技会名	日 程	開催 日数	場所	参加 卓数	前年度
1) ナショナル競技会（全国大会）					
全日本ウィメンズチーム選手権	4月 16、17日	2日	四谷 BC	32 卓	19 卓
全日本地域対抗選手権（関東予選）	5月 7、8、14日	3日	四谷 BC	中止	中止
藤山杯	7月 2、3日	2日	四谷 BC	25 卓	8 卓
全日本地域対抗選手権（全国大会）	7月 30、31日	2日	浜松グランドホテル	23 卓	中止
外務大臣杯（予選・決勝）	8月 13、14日	2日	四谷 BC	16.5 卓	18.5 卓
高松宮記念杯	9月 10、11、17、18日	4日	四谷 BC/五反田 BS	40 卓	38 卓
全日本女子ペア選手権（予選・決勝）	10月 1、2日	2日	四谷 BC	21 卓	23 卓
高松宮妃記念杯（予選・決勝）	10月 29、30日	2日	四谷 BC	24.5 卓	27 卓
ブルーリボン杯	12月 25日	1日	四谷 BC/名古屋 BC/大阪 BC	56 卓	64 卓
レッドリボン杯	12月 25日	1日	高田馬場 BC/	13.5 卓	11 卓
朝日新聞社杯	1月 11～13日	3日	四谷 BC/五反田 BS/高田馬場 BC	74 卓	73 卓
2) 日本リーグ					
1部	前期：6・11月	4日	四谷 BC	16 卓	16 卓
2部	後期：1・2月	4日		24 卓	24 卓
3) リジョナル競技会					
柳谷杯	4月 9、10日	2日	四谷 BC/高田馬場 BC	64 卓	63 卓
サントリー杯	4月 29日	1日	四谷 BC/名古屋 BC/大阪 BC	55.5 卓	中止
井上杯（予選・決勝）	5月 28、29日	2日	四谷 BC	17 卓	中止
井上歌子杯	5月 30日	1日	四谷 BC	23.5 卓	中止
渡辺杯	3月 18、19日	2日	四谷 BC	29 卓	25.5 卓
4) 社会人リーグ					
社会人 IMP リーグ	11月～3月		各会場	6 卓	6 卓

- 地方予選通過・地方クラブ推薦による参加者に対しては交通費・宿泊費の助成を実施するとともに、前日宿泊の宿泊費を助成した。

内訳：交通費補助・前泊補助の対象はチーム戦 2 競技会 9 チームと、ペア戦 0 競技会 0 ペア、補助総額は 76 万円。

- 競技会は参加者数がコロナの影響で例年の 7 割程度。

## 2. 競技会運営環境の整備（公益目的事業 1.2）

2022 年度は以下の事業を実施した。

### ① 競技会運営管理システム

- ・ 競技会集計ソフト（JTOS）の保守・管理を行った。

### ② 競技会運営環境の整備と維持

- ・ コロナの対応のためテーブル数を調整して、会場の収容人数を減らし換気を徹底した。1 ラウンドのボード数や対戦方法を見直しライト数をなるべく多く維持した。各競技会で体調不良者が出了たときに安心してキャンセルができるように各種規定を設けた。
- ・ パシフィコ横浜に預けていたブリッジテーブルを引き取り一般プレイヤーに送料実費にて譲ることにした。

### ③ 競技委員会

- ・ 寺本直志理事を委員長としてとして以下の 12 名が委員として活動した。

委員：ロバート・ゲラー、浅越ことみ、石橋瑞己、齋藤千鶴乃、桜井雅子、山後秀幸、佐々部君敏、正村祐一、林伸之、山田和彦、吉田正、仲村篤志

- ・ 定例委員会を 6 回開催した。

## 3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）

2022 年度は以下の事業を実施した。

### ① ディレクター講習会

2023 年 2 月 23 日（木）に四谷ブリッジセンターでクラブディレクター養成講習会を開催し、初回受講者 14 名を含む 15 名が受講した。

### ② ナショナルディレクター養成プログラム

ナショナルディレクター養成プログラムの実施を廃止した。

### ③ ディレクター承認

競技委員会においてクラブディレクター 6 名、セクショナルディレクター 3 名を承認した。

## 4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）

- ・ 競技会事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出した。

## II. 普及事業（公益目的事業 2）

### 1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）

ブリッジをよく知らない人々を対象に、気軽に参加でき、ブリッジに対する興味・関心を高めてもらうための各種体験イベント関連事業は、2022年度の実施を全て見送った。

#### ① 文化・教育関連イベント出展

国民文化祭、ねんりんピック、霞が関子ども見学デー、第13回関西ジュニア・ペア碁大会への体験教室の出展を見送った。

#### ② 他団体主催イベント

ゲームマーケット東京春、東京秋、関西、およびサンケイリビング社主催イベントへの体験教室の出展を見送った。

#### ③ 子ども向け体験イベント

##### ・橋之介くらぶ体験イベント

2017年9月より開始した大船BCおよび四谷BCの2会場で橋之介くらぶイベントを2022年4月～2023年3月に開催した。小学生から高校生及びその保護者にミニブリッジを体験、練習できる機会を継続的に提供し、ブリッジの認知度・イメージの向上を図るとともに将来のブリッジ界を担う若いプレイヤーの育成に取り組んだ。

#### 年間開催実績

事業名	実施場所別回数		実施時期	参加人数 (合計)
	四谷 BC	大船 BC		
体験／入門／練習会				
体験教室	8	0	4～3月	11名
橋之介道場	10	6	4～3月	19名
大会				
お楽しみ大会	1	0	7月	6名

##### ・橋之介くらぶ運営

2022年度の橋之介くらぶへの新規入会者数は7名（2021年度4名）、年度末時点での会員数は80名（同82名）、各種イベントへの延べ参加者数は33名（同36名※ジュニアのみ）であった。

会報橋之介くらぶコーナー・ウェブサイトの子ども向けページの記事の編集・作成・掲出、チラシ・ポスター制作・配付、登録者向けのイベント情報のメール配信などの広報活動を行った。

### 2. 講習会等の開催（公益目的事業 2.2）

ブリッジに親しみ、理解を深め、技量を向上させるための講習会等を開催する事業を「講習会等の開催」としてまとめ、以下の事業を実施した。

#### ユース向け講習会

意欲あるユースプレイヤーの育成を目的とする「ユース育成プロジェクト」の一環として、強化プログラムによる技術向上支援を行った。

##### A) 育成プロジェクト（公益目的事業 2.2）

2022年度の代表選手及び2023年度代表候補登録者を対象に、講習会、国内競技会参加、代表選考試合等で構成される育成プロジェクトを実施した。参加者には、プロジェクト指定の競技会（高松宮記念杯）の参加費を助成した。

ユース育成プロジェクトの2022年度の登録者数は61名（前年比62名増）だった。

#### B) 国際大会への派遣（公益目的事業3.2）

2022年度はAPBFユース選手権、及び昨年度から延期された世界ユースチーム選手権はともに中止となった。

### 3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業2.3）

体験教室や講習会等を開催する会員・会友や他の団体に対して、人的支援、金銭的支援、用具や教材の提供およびノウハウの支援を行った。

#### ① 一般支援

体験教室・入門講習会を開催して愛好者を増やしたいという会員・会友の自己負担を軽減する支援を継続し、開催場所・回数増を図った。また、カルチャースクール講座では通常支払われないアシスタント料を助成することにより、良質なブリッジ講座の開催を支援した。

- ・ブリッジセンター、クラブ及び個人が開催する体験教室の助成

8都道県およびシンガポールの教育現場や文化祭、地域イベント、国際交流イベント、老人福祉センター、公民館、ブリッジセンター、ブリッジクラブで、会員・会友が開催した体験教室の講師／アシスタント料、会場費、交通費を助成した。

地域別実施状況内訳

地域	参加者数	件数	助成額
北海道	35名	4件	¥44,800
群馬	23名	2件	¥24,000
茨城	74名	30件	¥55,000
埼玉	6名	1件	¥30,960
東京	340名	63件	¥534,569
千葉	8名	1件	¥14,220
神奈川	83名	21件	¥169,100
福岡	15名	2件	¥20,420
海外	10名	1件	¥23,200
合計	594名	125件	¥910,269

- ・ブリッジセンター、クラブ及び個人が開催する入門教室の助成

6都県及びシンガポールで会員・会友が開催した入門講習会の講師料、会場費、交通費のアシスタント料を助成した。

地域別実施状況内訳

地域	参加者数	件数	助成額
北海道	41名	4件	¥443,000
長野	6名	2件	¥55,200
東京	69名	15件	¥697,328
神奈川	40名	4件	¥428,560
愛知	32名	4件	¥371,240
福岡	9名	2件	¥80,400
海外	4名	1件	¥41,916
合計	201名	32件	¥2,117,644

- ・カルチャー講座助成

4都府県で開講されているカルチャースクール講座 35件について、アシスタント料、講師・アシスタント交通費および講師料（規定金額に満たない場合のみ）の助成を行った。

地域別実施状況内訳（アシスタント交通費助成を含む）

地域	参加者数	件数	助成額
東京	221名	26件	¥759,107
神奈川	23名	1件	¥11,052
千葉	14名	4件	¥140,055
大阪	30名	4件	¥27,360
合計	288名	35件	¥937,574

・地方活性化活動（地方クラブ支援）

全国のブリッジクラブによる普及活動を奨励し、イベント企画・体験教室スタッフ派遣・賞品提供など必要な支援を行った。

② 教育現場におけるブリッジ講座支援

- ・ 東京大学ブリッジ講座（17年目） 講師：浅井潔  
 講座概要： 前期、後期 各 14回、2単位  
 実施場所： 東京大学駒場キャンパス(オンライン)  
 支援内容： アシスタント 2名の派遣  
 結果： 単位取得者合計 27名
- ・ 早稲田大学ブリッジ講座（14年目）  
 講座概要： 前期 15回 講師：並木亮  
 実施場所： 早稲田大学(オンライン)  
 支援内容： 講師及びアシスタント 4名の派遣、交通費、会場費、用具その他授業経費支援を行った。  
 結果： 単位取得者 11名
- ・ 青山学院大学ブリッジ講座（12年目） 講師：島村京子  
 講座概要： 後期 15回  
 実施場所： 青山学院大学(オンライン)  
 支援内容： 講師及びアシスタント 3名の派遣、交通費、会場費、用具その他授業経費支援を行った。  
 結果： 単位取得者 45名
- ・ 明治大学ブリッジ講座（9年目） 講師：清水映樹  
 講座概要： 前期 15回 後期 15回  
 実施場所： 明治大学中野キャンパス  
 支援内容： 講師及びアシスタント 3名の派遣、交通費、会場費、用具その他授業経費支援を行った。  
 結果： 単位取得者合計 68名
- ・ 大阪大学ブリッジ講座（8年目） 講師：大橋正幸  
 講座概要： 前期 15回  
 実施場所： 大阪大学  
 結果： 単位取得者 27名

- 京都大学ブリッジ講座（1年目） 講師：小杉賢一朗  
講座概要： 前期 15回  
実施場所： 京都大学  
結果： 単位取得者 16名

### ③ 学校・学生支援

- 学生クラブの活動支援（部員勧誘活動、クラブ立ち上げ、用具提供）

要請に基づき、大学・高校・中学ブリッジ部の立ち上げや新入部員獲得活動に対する支援やクラブ活動に必要な教材・用具等の提供を行った。

対象クラブ：7クラブ

- 学生クラブによる他大学や他サークルの友人・知人へのPR活動推進支援（費用支給）  
要請に基づき、他大学や他サークルの友人へのPR活動への支援を行った。

- 学生リーグ主催の学生選手権への参加費用助成

学生リーグ主催の学生選手権、学生合宿は2022年夏および2023年春に実施された。

## 4. 広報（公益目的事業 2.4）

普及のターゲットごとに最適な広告メディアを選定してPR活動やプロモーション活動を行った。

### ① 広報宣伝 PR活動

- Twitter、facebook、およびインスタグラムを通じた情報発信を行った。

- センター主催体験教室・講習会告知広告

朝日新聞9月・2月（東京・神奈川・千葉）：201.3万円

- その他の広報宣伝活動

プレスリリース配信：2本

### ② プロモーション活動

- ネットゲーム環境としてBBOに開発したJCBL専用ルームの利用者拡大を図り、HPを通じた誘導を行った。

### ③ ウェブサイト運営

- 助成に関する規定や説明をより見やすくする目的でHPの階層を検討した。

### ④ 広報ツール、プロモーショングッズの作成・配布

- 普及のための広報ツールやプロモーショングッズを適宜作成・配布した。

## 5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）

- 普及ネットの運営を行った。

- ブリッジ・インストラクターの登録管理と登録証の発行を行った。

### III. 国際交流事業（公益目的事業 3）

2022 年度も (1)国際競技会の主催、(2)海外競技会への参加支援、及び(3)国際的競技団体との交流の 3 事業を通じて、ブリッジの普及・発展への寄与に努めた。

#### 1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）

2022 年度は国際競技会を開催しなかった。

#### 2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）

##### ① 日本代表選抜

- 2023 年 APBF 選手権のオープン、レディース、ミックス、シニアの各代表をそれぞれ選抜した。遠隔地からの参加者には交通費と宿泊費を助成した。
- 代表チームの国内ナショナル競技会参加料及び練習会の費用を助成した。

##### ② 国際競技会派遣

- 第 4 回アジアカップ

第 4 回アジアカップが 10 月にインドネシアで開催され、オープン、レディース、ミックス、シニアの各代表が参加した。シニアが 2 位、オープンが決勝ラウンドに進出した。

- 世界ユーストランスナショナルチーム選手権

世界ユーストランスナショナルチーム選手権がイタリアで開催され、U31、U26、U21 の各代表が参加した。

#### 3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）

コントラクトブリッジを通じた国際交流を促進するため、2022 年度は以下の事業を実施した。

##### ① 世界同時大会への参加

- 開催中止

##### ② WBF ユース支援同時大会への参加

- 開催中止

##### ③ 海外競技会に参加する会員の支援と海外への情報提供と収集

- ACBL との提携の継続・強化：ACBL 競技会の開催状況の提供
- APBF 加盟国競技会の開催情報の提供
- WBF 加盟国の競技会開催情報の提供

##### ④ JCBL ウェブサイトの活用

連盟サイトを通して海外に情報を提供するとともに、ブリッジ関連サイトから情報を収集し、会員・会友に提供した。

#### 4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）

- 国際交流事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出した。

## IV. 収益事業等

### 1. 公認（収益事業等 1）

#### 収益事業等 1.1 競技会の公認

##### ① クラブ・センター主催競技会の公認

- 当連盟が公認するブリッジセンター及びブリッジクラブが主催する競技会（ナショナル、リジョナル、セクショナル、ローカル、CCG、IMPリーグ、ウィークリーゲーム）を公認した。

レイティング	競技会数	2022年度 卓数	2021年度 卓数
ナショナル	13	120.5	99.5
リジョナル	40	870.5	621
セクショナル	2,265	31,214.5	27,986.5
ローカル	121	535.5	342.75
CCG	1084	7768.0	6919.0
IMP	270	1,352	1352
合計	3,793	41,861.0	37,320.75

##### ② マスターポイントの認定・管理

- マスターポイントの集計・発行及びマスター位の認定を行った。

マスターポイント証発行枚数：49,117枚

2022年度認定したマスター位の人数は以下の通り

ダイアモンドライフマスター：	2名
プラチナライフマスター：	84名
ゴールドライフマスター：	15名
シルバーライフマスター：	34名
シニアライフマスター：	73名
ライフマスター：	81名
シニアマスター：	67名
ナショナルマスター：	110名
マスター：	110名
ジュニアマスター：	121名

#### 収益事業等 1.2 ブリッジクラブの公認と育成

##### ① ブリッジクラブの公認と育成

- 浜松リジョナルの中止に伴い地方クラブ会議は中止した。
- 「常設会場運営のためのサービス・ガイドライン」の運用、「ゲーム環境に係わるサービス向上のための意見書」対応、「緊急連絡システム」の運営を行った。

##### ② 競技会開催支援

地方リジョナル3競技会にディレクター派遣費用の助成を行った。

### 2. 商品販売（収益事業等 2）

コントラクトブリッジに関する書籍、競技用具等の仕入れと販売を行った。

## V. 法人・管理部門

### 1. 会員・会友

#### ① 入退会の状況

会員／会友数(2023年3月31日現在)

会員資格	2023/3月	2022/3月	増減
正会員	36	43	△7
シニア正会員	91	91	+0
終身会員	71	75	△4
特別会員	9	10	△1
名誉会員	2	2	+0
小計	209	221	△12
A会友	1,623	1,779	△156
B会友	3,627	3,674	△47
地方会友	754	793	△39
ジュニア	18	23	△5
終身会友	88	89	△1
小計	6,110	6,358	△248
総計	6,319	6,579	△260
クラブ	81	84	△3

#### ② 会員・会友向け刊行物の発行

- 会員・会友向けの以下の刊行物を編集・発行した。

『JCBL BULLETIN』(会報) 隔月刊年6回奇数月1日に発行

部数：7,000部(1、2号)、6,500部(3~6号)

『JCBL HANDBOOK』 毎年5月1日発行、部数：7,000部

#### ③ JCBL ライブライバーの運営

- 通常の新刊書に加え、欠落していた図書の追加購入を行った。

#### ④ キャンペーン

- 会員・会友向けに「紹介キャンペーン」を実施した。

実施内容：新入会者及び紹介者にQUOカードを進呈

実施期間：2021年度入会対象(2021年4月1日～4月30日)

2022年度入会対象(2022年1月1日～3月31日)

- 一般向けに「新入会キャンペーン」を実施した。

実施内容：新入会者は会費1年間無料

実施期間：2021年度無料対象(2021年4月1日～2021年12月31日)

2021年度および2022年度無料対象(2021年1月1日～3月31日)

## 2. 理事会・会員総会

### (1) 理事会

開催日／出席等	議事事項	会議の結果
第 79 回理事会 4月 22 日 出席 10 名 欠席 2 名 監事出席 2 名	1. 第 78 回理事会議事録案の承認について 2. 会員の逝去について 3. 次期役員立候補について 4. 2021 年度事業報告書および決算報告書について 5. 理事による利益相反取引の招集について 6. 第 11 回会員総会の招集について 7. 高松宮癌研究基金について 8. 各委員会及び事業部報告	可決 了承 承認 会員総会への付議を決議 承認 承認 承認 了承及び承認
第 80 回理事会 5月 28 日 出席 13 名 欠席 0 名 監事出席 2 名	1. 役員の互選について 2. 競技委員選任について	選任 承認
第 81 回理事会 6月 24 日 出席 10 名 欠席 3 名 監事出席 2 名	1. 第 79 回及び第 80 回理事会議事録の承認について 2. 会員の逝去について 3. 会員資格の喪失について 4. ルール委員長及び各委員会委員の承認について 5. 国際大会開催準備金について 6. 各委員会及び事業部報告	可決 了承 了承 承認 承認 了承及び承認
第 82 回理事会 8月 26 日 出席 11 名 欠席 2 名 監事出席 2 名	1. 第 81 回理事会議事録案の承認について 2. ルール委員の承認について 3. 各委員会及び事業部報告	可決 承認 了承及び承認
第 83 回理事会 10月 28 日 出席 11 名 欠席 2 名 監事出席 2 名	1. 第 82 回理事会議事録案の承認について 2. 会員の逝去について 3. 公認クラブ申請について 4. 表彰規則の改正について 5. ガバナンスコード 2022 年度自己公表について 6. 各委員会及び事業部報告	可決 了承 承認 承認 承認 了承及び承認
第 84 回理事会 12月 16 日 出席 12 名 欠席 1 名 監事出席 2 名	1. 第 83 回理事会議事録案の承認について 2. 会員の逝去について 3. 2023 年度予算案について 4. 理事による利益相反取引の承認について 5. 50 年度表彰制度について 6. 委員会委員の承認について 7. 各委員会及び事業部報告	可決 了承 継続審議 承認 承認 承認 了承及び承認
第 85 回理事会 1月 31 日 出席 11 名 欠席 2 名 監事出席 2 名	1. 第 84 回理事会議事録案の承認について 2. 会員の退会について 3. 会員の逝去について 4. 2023 年度予算案について 5. 規則の改正および制定について 6. 各委員会及び事業部報告	可決 了承 了承 継続審議 承認 了承及び承認

第 86 回理事会 3月 28 日 出席 11 名 欠席 2 名 監事出席 1 名	1. 第 85 回理事会議事録案の承認について 2. 会員の退会について 3. 会員の逝去について 4. 2023 年度予算案及び事業計画書について 3. 各委員会及び事業部報告	可決 了承 了承 承認 了承及び承認
---	---	--------------------------------

## (2) 総会

開催日／出席等	議事事項	会議の結果
第 11 回会員総会 5月 28 日 総会構成員 218 名 出席 125 名 (委任状 105 名)	1. 2021 年度の公益社団法人日本コントラクト ブリッジ連盟事業報告、貸借対照表、正味 財産増減計算書、財産目録について 2. 2022 年度の事業計画並びに予算案の報告に ついて 3. 理事改選について 4. 監事改選について	承認 了承 選任 選任

## 3. 組織運営

## ① 事業運営体制

- 各事業部から提出された予算案原案をもとに 12 月、1 月開催の理事会及び 2 月、3 月開催の企画委員会において予算案を検討した。3 月 8 日に開催した企画委員会において 2023 年度予算案及び事業計画をまとめ、3 月開催の理事会において承認した。
- 来年度以降も各事業部が予算編成を行い、それをまとめた時点で業務執行会議を開催し、各事業部の予算について拡大、縮小の審議を行う。その後の理事会および企画委員会で予算案について検討を行い、3 月開催の理事会で最終案を承認する手順を踏む。
- いくつかの規則の制定及び改訂を行った。

## ② 事務局

- 休業を行うことにより人件費の削減に努めた。

## 4. 常設委員会・特別委員会

## ① 企画委員会

- 2022 年 6 月 24 日開催の第 81 回理事会において委員長指名により選任した以下のメンバーで構成されている。

委員： 吉田正（委員長）

(委員長が指名する委員) ロバート・ゲラー、高野英樹、寺本直志、仲村  
篤志、古田一雄、柳澤彰子

アドバイザー：宮内宏顧問弁護士

- 定例委員会を、2022 年 7 月 13 日、8 月 10 日、9 月 13 日、10 月 12 日、11 月 9 日、12 月 14 日、2023 年 1 月 11 日、2 月 8 日、3 月 8 日の合計 9 回開催した。
- 本委員会では、以下の課題に取り組んだ。

- 1) 2023 年度予算案審議・事業計画書作成
- 2) 会員および会友の競技会参加状況の確認および競技会活性化策の検討
- 3) JTOS の運用状況の確認および検討
- 4) その他、JCBL の運営全般に関わる事項

(1) 2023 年度予算案の審議については、予算全体の方針の審議、競技会事業部、普及事業部などの担当業務執行理事による予算方針の説明、および事業部間調整が行われ、円滑に編成が行われた。

また、2023 年度事業計画書についても、滞りなく作成された。

- (2) JTOSについては現在の運用状況および課題の確認を行った上で、今後の長期安定性の確保をテーマとして検討した。
- (3) コロナ対応の全般を扱った。感染防止対策、各種発令への対応、JCBL 主催事業の開催方針、センターおよびクラブ支援策を検討した。

② センター協議委員会

- ・ブリッジセンターの代表者と定期的に意見交換を行う協議会として、以下のメンバーにより構成されている。  
委員：浅越ことみ（委員長）、齋藤陽子（普及事業担当理事）、山田和彦（競技会事業担当理事）、高野英樹（事務局長）、仲村篤志（競技会事業部長）
- ・首都圏ブリッジセンター側の代表者と相談し、必要に応じて委員会を開催している。適宜各委員会および理事会への連絡や要請などを行っている。
- ・今年度に関しては、IMP 割引キャンペーン、競技会管理システムの継続性について、およびコロナ対応を主に検討した。

③ 競技委員会

I. 競技会事業（競技会運営環境の整備）参照

④ 代表選抜委員会

- ・国際競技会の日本代表の選抜方法及び代表選手への助成を検討する場として、以下のメンバーにより構成されている。  
委員：橋本公二（委員長）、齋藤陽子、古川京司、高野英樹
- ・今年度に関しては第4回アジアカップの代表選抜方法及び助成内容、第19回アジア競技大会の代表選抜方法について検討を行った。

⑤ ルール委員会

I. 競技会事業（競技会運営環境の整備）参照

⑥ 人事委員会

- ・定例委員会を2023年2月15日に開催し、2022年度の職員の評価、2023年度の職員の年俸支給額などについて検討を行い、来年度の職位を決定した。